

第 45 回研究例会 **南葵音楽文庫貴重資料デジタル化報告会** 報告者：長谷川由美子

場所：慶應義塾大学三田東館 6 階グローバルスタジオキャンパス

日時：2008 年 12 月 9 日（火） 午後 3 時 30 分から午後 4 時 30 分

協力：財団法人 読売交響楽団、国際音楽資料情報協会 (IAML) 日本支部



撮影・関根敏子

南葵音楽文庫貴重資料はデジタル化の作業が進展し、いよいよ今年の 4 月以降順次公開が予定されている。一年前に行われた学会発表とは異なった形での報告会は多くの人の関心を集めた。なお、IAML からの出席者は 20 名を超え、この問題に対する関心の高さを裏付ける結果となった。

慶應義塾の西村常任理事に続いて挨拶に立った読売日本交響楽団吉田常務理事は「読売交響楽団の持っている「お宝」を何らかの形で公開して文化的貢献を果たしたいと考えていたため、慶應義塾大学の DMC 機構との協力でそれが実現できることは非常に喜ばし

いこと」と述べ、画像公開への強い期待を印象づけられた。挨拶の後、報告された当日の内容は以下のとおりである。

- ①プロジェクトの概要
慶應義塾大学文学部教授 美山良夫
- ②ハイビジョン・プログラム「南葵音楽文庫貴重資料デジタル化」上映
- ③南葵音楽文庫貴重資料デジタル化の意義
愛知淑徳大学准教授 伊藤真理
- ④デジタル化画像デモンストレーション
慶應義塾大学 DMC 機構助教 篠田大基
- ⑤ Q & A (質疑応答)

■南葵音楽文庫

南葵音楽文庫とは紀州徳川家第十六代当主徳川頼貞氏(1892-1954)によって買い集められた西洋音楽の一大コレクションを有した音楽専門図書館で、その中核をなすのは1917年に氏がロンドンのオークションで落札したカミングス・コレクション(イギリスの教会音楽家だったウィリアム・カミングス(Cummings, William Hayman, 1831-1915)が築き上げた一大音楽コレクション)である。1913年から15年までケンブリッジ大学で音楽学を学んだ氏は、私財を投じて日本の音楽文化発展のために多くの資料を買い集め、1918年に麻布飯倉に建設された音楽ホール南葵楽堂に併設した音楽図書館で資料を広く公開し、また、音楽学者の育成にも寄与した。1923年関東大震災のため一時図書館は閉鎖されたが、1924年には活動を再開した。しかし財政難のため1932年には閉鎖に追い込まれた。資料は1945年までは慶應義塾大学図書館に預けられた。戦後、1970年前後に目黒区駒場の日本近代文学館内で一時公開され、新規資料購入も行われた。1977以降マイクロフィルムによる閲覧が一時可能となったが再び非公開、現在に至っている。現在の所有者は(財)読売日本交響楽団である。

■プロジェクトの概要(慶應義塾大学文学部教授 美山良夫氏の講演を筆者が要約)

2004年に慶應義塾大学のDMC機構が文部科学省科学技術振興調整費の戦略的研究拠点育成事業に採択され、設立された。その一つのプロジェクトが「音楽資料のデジタル化と活用」で、目標実現にあたって選ばれたのが(財)読売日本交響楽団所蔵の「南葵音楽文庫」である。楽団との協議を経て2005年度から貴重資料のデジタル化を開始した。デジタル化の対象となった貴重資料とは1970年に正木光江氏によって目録化された「南葵音楽文庫蔵書目録(貴重資料)」掲載の資料を指す。800点の内訳は手稿資料約100点、印刷本約700点その他で、このうち370点がカミングス・コレクションに由来する。手稿資料の中には以下のものが含まれる。

- ①ベートーヴェンが音楽出版者ペーターズに宛てた書簡(日付なし)
- ②ロッシーニ 書簡(1827年10月28日)
- ③ヘンデル 通奏低音演奏のための若干の黄金規則(自筆)
- ④ベートーヴェン自筆譜 《23の諸国の民謡》(WoO 158a) 第15番「我らの乙女たちは森へ行った」[ロシア民謡の編曲。「新ベートーヴェン全集」の校訂のため、ボンのベートーヴェン・アルヒーフにデジタル画像を提供]
- ⑤リスト自筆譜 スケッチ 「テ・デウム」自筆楽譜断片の裏面。器楽曲のスケッチ。この作品については同定がされておらず、世界のリスト研究者による解明が待たれる]
- ⑥クラマー 器楽ソルフェージュのための新たな実践教則本(自筆)
- ⑦ヘンデル オラトリオ「アタリア」(弟子ミスによる筆写譜)
- ⑧ハッセ 「わが主イエス・キリストの墓への巡礼」(W. クロッチによる筆写譜)
- ⑨ペープッシュ 8曲のバイオリン・ソナタ(自筆譜) (当日配布資料より)

これら重要な手稿譜(自筆を含む)100点についてはあらたにDMCの設備機材を使い高精細のデジタル化を進めている。その他の印刷資料に関してはマイクロフィルム画像からデジタルに変換した。南葵音楽文庫の資料は40年前に貴重資料を中心にマイクロフィルム化が行われていたが、現在ではフィルムの劣化がマイクロ資料を所有している図書館で大きな問題となっている。従って約260本のマイクロフィルムに含まれる約13万コマのデジタル化も同時に行い、丸2年がかりで2008年11月にすべてのマイクロ画像デジタル化が終了した。又平行して、現在行われている世界の音楽資料のデジタル化についての調査を進めた。

このようにしてマイクロからの資料のデジタル化は完成したが、閲覧までにはいくつか解決せねばならない問題が残っている。中でも国際的に流通する知の共有化に対応するためには検索項目として機能するメタ・データについての問題を解決する必要があるが、現在は

共通ルールが存在しない。デジタル化を推進している世界の多くの施設においてもそれぞれがそれぞれの目的に従ってメタ・データを作成しているのが現状である。

デジタル化によって可能なことと、可能にするための作業と技術についての国内での議論はこれから行われる状況にある。この点についてはメタ・データの標準化をめざしてい

るダブリン・コア (Dublin Core) との関係が DMC 機構の中で議論された。また、この報告会の協力団体である IAML との連携が必要と考えている。

当プロジェクトのためのリソースは限られていたが、DMC 機構のもつ汎用性と高度な専門性を持った人材、読響側の協力がプロジェクトを推進できた最も大きな力であった。

■南葵音楽文庫貴重資料デジタル化の意義 (愛知淑徳大学准教授 伊藤真理氏の講演を筆者が要約)

この報告では様々な資料を通して気づいたことや補足できることを説明し、プロジェクトに対する期待を述べる。

I: 音楽資料の保存と活用の現状

アーカイブとは文化的価値の評価や永続的な保存維持管理が大切なため、どの国でも国立の機関が担っているのだが、周知のとおり国立国会図書館には音楽専門のセクションがない。つまり国内の音楽資料について長期にわたって明確な方針を立てて考えていくことが脆弱であることになる。しかし現場の研究者や図書館関係者にとっては「資料」の問題は重要であるため、大変な危機感がある。日本音楽学会年次大会でもこの資料の問題が取り上げられた。この数年の動きは以下のとおりである。

- ☆日本音楽学会 2005 年全国大会
ラウンドテーブル：日本の音楽資料
- ☆音楽図書館協議会の作った「日本の音楽資料」
音楽資料担探訪 (1979)
日本の音楽コレクション (2002)
- ☆樋口隆一「日本の洋楽資料コレクション」
『藝術学研究』2006)
- ☆文化庁委託調査「音楽情報・資料の保存及び活用に関する調査研究」(ニッセイ基礎研究所, 2005-2006)
(伊藤真理氏作成スライドより. 以下同様)

文化庁の委託調査は、国内の現状を調査、海外との比較をし、我々が経験的に知っていた次のことを指摘した結果となった。つまり音楽資料の系統的収集がなされていないこと、

指定管理者制度によってアーカイブが影響をうけていること、録音資料などについての統一された書誌データがないこと、デジタル化に関する資格、保存の信頼性、セキュリティについて検討が必要なことである。

II: デジタルアーカイブの国内海外の例

- デジタル・アーカイブ (国内)
- ☆デジタルアーカイブ白書(デジタルアーカイブ推進協議会)(楽譜に関する項目なし。楽譜に関しては十分になされていない証拠)
- ☆文化庁『文化遺産オンライン』(音楽の項目はあるが、内容無)
- ☆国立音楽大学 立命館大学『竹内文庫』
- ☆東京大学『黒木文庫』
- ☆沖縄伝統文化デジタルアーカイブ
(伊藤真理氏作成スライドより. 以下同じ)

- 海外(ヨーロッパ)
- ☆ Düben Collection (Uppsala Univ., Sweden)
- ☆ Philidor Collection (Bibliothèque nationale de France with Bibliothèque Municipale de Versailles, France)
- ☆ DIAMM: Digital Image Archive of Medieval Music (Oxford Univ., Univ. of London, UK)
- ☆ Bodleian Library Broadside Ballads (Oxford Univ., UK)
- ☆ Italian Digital Library (Italy)

海外 (US)

- ☆ American Memory: The Moldenhauer Archives(LC)
- ☆ American Memory: Music for the Nation: America Sheet Music, ca. 1820-1860(LC)
- ☆ Africa America Sheet Music—1850-1920(Brown Univ)
- ☆ Historic American Sheet Music(Duke Univ.)
- ☆ Levy sheet music collection (John Hopkins Univ)
- ☆ 19th century California sheet music (UCBerkeley)
- ☆ Lully Web Project (University of North Texas)

欧米では 90 年代末からデジタル化が盛んになったし、大量の資料を有するイタリアが 2008 年 6 月にアーカイブを公開するようになった。これらのアーカイブで必ず触れられていることは著作権である。資料にどのようにアクセスできるか、許諾を求める指示がある。国によって規定が変わるため、これから検討せねばならないことの一つである。

Düben Collection や DIAMM ではかなり詳しいメタ・データ(原資料にアクセスするための手がかり)が用意されているが、何が利用者にとって必要かは検討の余地がある。

III: 南葵デジタル化の意義

西洋音楽資料のデジタル化は日本ではまったく行われていないため、それだけでも南葵文庫のデジタル化は意義がある。しかしこの国内の現状が遅れているわけではないと発表者は考える。現在は情報の流通や統一、インターフェイスの問題について国際的に統一されたものはないため、本プロジェクトの働きによって我々がこれから考えていくための踏台に上がることが出来たと思う。

1 音楽学研究への貢献

- ☆史料比較研究
- ☆音楽学的理論の実証や精密化
- ☆作曲、編曲への応用
- ☆音楽知覚認知
- ☆他媒体(音源、テキストなど)との融合
- ☆国内の他コレクションのデジタル化への寄与
本プロジェクトの汎用性
国内のデジタルコレクションの充実
教材への応用可能性の検討(cf. Indiana Univ.)Variations2)

南葵に言及した音楽文献はこの 20 年間に 10 を下らないほど、世界の音楽学研究者にとっての注目されたコレクションである。

このプロジェクトで考えてもらいたいことはテクニカルな面での汎用性である。そこでビジネスモデルを示していただきたい。国内にはさまざまな「お宝」が隠れているが、南葵文庫と同じように文化的な貢献についての一つの目安になり、将来は音楽資料リポジトリーが構築できるだろう。

2 情報処理研究への貢献

- ☆ Levy sheet music collection (John Hopkins Univ.)のデジタル化での楽譜のスキナーに関する研究
イメージ変換
楽譜読み取り解析ソフトの開発
楽譜認識を活用した演奏支援
歌詞のフルテキスト作成ソフトの開発
検索システムの開発: 楽譜の断片を検索
キー

これはジョンズ・ホプキンス大学の Levy sheet music collection (アメリカの 19 世紀のポピュラー音楽コレクション) の例だが、上述のような情報処理研究への貢献がなされてきた。

3 図書館情報学への貢献

本プロジェクトの目標 [世界への流通] のために

☆アーカイブに沿ったメタデータの検討

Cf. Düben collection; RISM; NDL デジタルアーカイブシステム・メタデータスキーマ

* 分類

* 利用研究の支援

* デジタルコンテンツの流通における著作権管理の検討

☆課金

☆音楽情報ポータルサイト構築

原資料へのアクセスはアーカイブの形に添った形で考えてほしい。図書館員の「親切な押し売り」ではなく、利用者が何を本当に求めているのかを十分に研究して、メタ・データの開発に繋げてもらいたい。

■感想

実際の資料閲覧は様々な制限があるが、デジタル化による様々な使い方（画像の拡大、マーキング、ポストイット添付や、メモの打ち込み）が印象に残った。

さて、筆者はこの十年来 1900 以前の国内外貴重資料の目録化に従事しているが、仕事をするにあたって、デジタル化された各国（日本も含む）のサイトを、日々の目録作業の参考にしている。タイトルページが欠落した資料はフランスの国立図書館でデジタル化されたため、「アノニマス」と記入せねばなかったことが避けられた。また、一回の出版部数が少数で、何回も再版される楽譜の場合、同一作曲者の同一曲で同一出版者から出されたコピー群の中で、取り扱っているコピーがどこに位置するのか（初版なのか、改題版なのか、プレートの入れ替えが行われたのか、別種類のプレートが混じっていないかどうか、後刷りなのか、値段の改訂があったのか等）を目録作業者は出来ることなら明確にしたいと願う。ショパンの楽譜整理の際、シカゴ大学で公開されているショパンのデジタル画像を照合することで、19 世紀半ばの、貴重書の世界ではあ

まり関心をもたれず、従って参考資料が少ない楽譜について自館のコピーの位置を知ることが出来た。その際、第 2 版が出版されていたシカゴ大学所蔵の目録に掲載された詳細な書誌記述がデジタル画像ともども役立ったことはいうまでもない。

貴重書整理担当としては当然、書誌記述部分に注目する。南葵音楽文庫は資料数がそれほど多いとは思えないため、アクセス・ポイントはごく簡単でも済むと思うが、記述部分の充実を様々な例を参考に検討してもらいたい。高い解像度のデジタル画像があれば、記述に多くの時間をかける必要はない、との意見もある。一面ではこれは真実である。筆者の中でも画像が単に必要な場合もあるが、目録担当者としては他の記述を仕事の参考にしたい。つまり、立場の違いによって異なった要求がデジタル画像と書誌データに対して存在する。様々な利用者のニーズを満足させるような便利で、しかも精度の高い記述を期待している。一般の閲覧者は実物を見ることが出来ない。その分、資料整理する人間や機関の資質が問われるだろうし、慶應義塾大学の人材を考えた場合、それは可能であると信じている。

参考文献:

- 1) 美山良夫・篠田大基: 慶應義塾大学 DMC 機構における音楽資料のデジタル化県境の状況 (報告). 国際音楽資料情報協会日本支部 Newsletter, no 33(2008, 09). pp. 3-5.
- 2) Oxalis: 音楽資料デジタル・アーカイビング研究 (慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ総合研究機 (2008, 04)
- 3) 日本音楽学会関東支部通信 85 号 (2007.12) 報告 美山良夫・篠田大基. 音楽資料のデジタル化 現状と課題、傍聴記 林淑姫
- 4) 慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構 平成 19 年度活動報告書

*伊藤氏の講演内容は、慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構「音楽資料のデジタル化と活用」プロジェクト編『Oxalis』第 2 号に掲載されています。(編註)



事務局だより



■会員の活動情報

手代木俊一『日本プロテスタント讃美歌・聖歌史事典 明治篇』（港の人、2008.3） ISBN：978-4-89629-190-2

藤堂雍子編・発行『古澤淑子楽譜コレクション目録：フランス歌曲研究会所蔵 東京芸術大学音楽学部声楽科研究室寄託資料』（2008.6）私家版。お問い合わせは編・発行者まで。

蒲生美津子・土田英三郎・川上 央編集「兼常清佐著作集」全 15 巻・別巻 1 巻のうち第 1～10 巻既刊（大空社、2008.6、2009.1） ISBN：978-4-283-00610-2(vol.1-5), 978-4-283-00611-9(vol.6-10)

☞ 会員の活動情報をお寄せ下さい
2008 年 6 月以降に編集担当のもとに届いた情報を掲載いたしました。

研究会や演奏会などの催し、出版等、広く会員向けに告知したいことなどを下記担当宛にお寄せください。

ニューズレター担当 末永理恵子

会計から

■ 2009 年度会費納入のお願い

会費未納の方は、ゆうちょ銀行または銀行よりご送金ください。年会費と振込先は以下の通りです。

●年会費 個人 6,000 円 団体 14,000 円

●振込先

ゆうちょ銀行 00130-5-75629 IAML 日本支部
三菱東京 UFJ 銀行 六本木支店

普通 1089206 IAML 日本支部 (イムルホンゾウ)

代表 森佳子

連絡先の変更も併せてお知らせください。

IAML 日本支部会計係 森佳子

■総会・研究例会のお知らせ

国際音楽資料情報協会 (IAML) 日本支部の 2009 年度総会は 6 月 7 日 (日) 午後 1 時から東京文化会館 4 階中会議室 (1) で開催されます。また、総会に引き続き午後 3 時から第 56 回研究例会「IAML 日本支部の過去・現在・未来」が開催されます。開催通知は 5 月下旬にお手元に郵送の予定です。

■寄贈資料 (2008 年 6 月～2009 年 2 月)

- ・宍道勉様「イタリアの図書館」(今井書店鳥取出版企画室、2008.07)
- ・音楽文献目録委員会様「音楽文献目録 36」(音楽文献目録委員会、2008.10)
- ・日本フルート協会様「日本フルート協会会報 nos.209 (2008.08)、210(2008.10)、211(2008.12)」
- ・遠山一行様「Fontes Artis Musicae 55/2、55/3、55/4」(IAML)

以上の方々より、資料をご寄贈いただきました。あつく御礼申し上げます。

■事務局への連絡

IAML 日本支部事務局住所は、日本近代音楽館気付となっておりますが、お急ぎのご連絡は下記事務局宛に直接お願い申し上げます。

事務局長：松下鈞

==== Postscript =====

第 45 回研究例会は、慶應義塾大学 DMC 機構主催の報告会でした。開催にあたって DMC 機構より特別のご配慮をいただき、さらにはニューズレターに写真付きで報告を掲載することも、快くご許可いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。(末永)

Newsletter — 国際音楽資料情報協会日本支部
第 35 号

2009 年 3 月 31 日発行
発行 国際音楽資料情報協会 (IAML) 日本支部
〒106-0041 東京都港区麻布台 1-8-14
日本近代音楽館気付
<http://www.iaml.jp>